

北海道が抱える様々な課題

- 広域分散・距離のハンディ
- 地域医療・教育環境の維持・確保
- 地域交通・物流の維持・確保
- 地域、産業の担い手不足
- 大規模自然災害への備え
- 新型コロナウイルスの感染拡大**

未来技術の進展

- ドローン等の未来技術の実用化
- インターネットの利用拡大
- スマートフォンの普及、キャッシュレスの進展
- 5Gのサービス開始
- AIやビッグデータ等の利活用

「ピンチをチャンスに！」

未来技術を積極的に活用することで
北海道が全国に先駆けて「Society5.0」を実現

○ 実現したい未来社会「北海道Society5.0」とは

人口減少や少子高齢化など様々な課題を抱える北海道が、ICTやAI、ロボットなどの未来技術を活用して、直面する課題を解決するとともに、そこから得られるデータ（ビッグデータ）を活用して道民生活の一層の向上や新サービスの創出などに繋げていくことで実現する「北海道の未来社会」（概ね10年後の2030年頃を想定）。



○ 背景

～国の規制緩和により令和4（2022）年度中に有人地帯の目視外飛行が実現～

- 少子高齢化や人口減少に伴う担い手不足等を背景に、一次産業や物流など様々な分野でドローンの社会実装に向けた実証実験が展開
- 通信事業者や航空会社、スタートアップ企業など様々な企業が参入し、新たなサービスや技術開発が加速

ドローンによる医薬品配送の実証実験



ドローンを活用した野生鳥獣被害対策



ドローンによる農薬散布



（更別村）

○ 本道が抱える課題

- 積雪寒冷等の厳しい気象条件下におけるドローンの飛行実証が行われていないため、通年での道内におけるドローンの社会実装が進んでいない。
- 地域課題や最新の技術動向等の情報共有の仕組みが未整備のため、市町村と民間事業者とのマッチングが進んでいない。

令和4年度 北海道ドローン活用実証事業

事業概要

積雪寒冷地における、ドローンの利活用の可能性を調査・検証し、災害時や物資輸送、施設管理等での利活用を促進。

積雪寒冷下の検証・実証（想定）

【例】

- ✓ 防災減災に向けた活用
- ✓ 生活物資等の輸送などでの活用
- ✓ 施設や資源の維持管理での活用 等

実証を踏まえた事業の横展開

全道で年間を通じてのドローンの社会実装に向けた取組を促進